

会議名称	令和4年度 門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和5年3月16日(木) 午前11時から正午まで
開催場所	門真市役所 本館4階 第8会議室
出席者	(委員) 清澤委員、朝倉委員、本田委員、中出委員、わかぎ委員 【出席人数 5人/全6人中】 (事務局) 水野市民文化部長、山市民文化部次長 清水生涯学習課長、森井課長補佐 空本係員、西原係員、別府館長
議題 (内容)	・門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について (パイロットプロジェクト及び関西フィルハーモニー管弦楽団) ・指定管理者の取組状況について
傍聴者数	0人
担当部署	(担当課名) 市民文化部 生涯学習課 (電話) 06-6902-7139 (直通)

### 【事務局】

それでは、定刻になりましたので、令和4年度 門真市文化芸術推進審議会を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。なお、事前に配布している資料から少し修正がございます。ご了承ください。

表紙 門真市文化芸術推進審議会 次第

資料1 文化芸術推進審議会の会議公開要領

資料2 パイロットプロジェクトの取組状況

資料3 関西フィルハーモニー管弦楽団との取組状況

資料4 指定管理者指定事業実施状況

資料5 指定管理者自主事業等実施状況

資料6 配席図

以上でございます。資料に不足はございませんか。

本日の門真市文化芸術推進審議会の出席者について、まず、審議会委員をご紹介いたします。

門真市文化芸術推進審議会 会長の清澤委員でございます。

副会長の朝倉委員でございます。

本田委員でございます。

中出委員でございます。

わかぎ委員でございます。

原委員は所用につき欠席でございます。

また、こちらにおります我々は、当審議会事務局の市民文化部及び生涯学習課職員と、ルミエールホールの指定管理者であります特定非営利活動法人トイボックス職員でございます。

それでは、開会にあたりまして、市民文化部長の水野がご挨拶申し上げます。

#### 【水野部長挨拶】

市民文化部長の水野でございます。

門真市文化芸術推進審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆さまにおかれましては、本日の審議会開催に際しまして、年度末の公私ご多忙のところご出席を賜り厚くお礼申し上げます。

現在のわが国に置きましては急速に進む少子高齢社会に加え、ICT化の加速により、一段と人間関係が希薄になり、また文化の薫りに満ちた心豊かでゆとりのある地域社会の実現に向け、文化芸術の創造や継承を担う人材の確保や試みが求められているのではないかと感じております。

本市におきましても、新しい時代に引き継ぐべきものを大切にしながら、魅力あるまちづくり、市民の皆様の生きがいや誇りにつながる文化芸術施策に取り組むべく、市民や市内企業のみなさまと協働・共創で「門真市文化芸術推進基本計画」の実践に取り組んでいるところでございます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、先般マスクの着用が個人の判断にゆだねられ、5月8日からは感染症法の分類が5類に移行する方針が国で決まりました。ようやく文化芸術をはじめとするさまざまなイベントが制限なく活動できるようになり、コロナ禍前の日常に近づくものと期待しております。

本日の審議会におきましては、委員の皆様、本市における文化芸術の進捗状況などについて率直なご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。

#### 【事務局】

本会議につきまして、資料1「門真市文化芸術推進審議会の会議公開要領」において、「会議は、公開するものとする。」と規定していることから公開していることをご了承ください。なお、門真市情報公開条例第6条の各号に掲げる不開示情報に該当する情報を審議する場合には、議長は会議に諮り、会議を公開しないことができることとなっておりますことを申し添えます。

なお、議事録を作成する必要があることから、本審議会を録音させていただきます。それでは以降の進行を清澤会長にお願いいたします。

#### 【会長】

委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。事務局におかれましても、お忙しい中ご参集していただきありがとうございます。

次第を進めてまいりたいと思います。事務局よりご説明をお願いいたします。

#### 【事務局】

それでは、案件1、門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況についてご報告させていただきます。

まず、本審議会の目的としましては、委員の皆さまに、本市の文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について評価をしていただき、改善に向けてご意見を頂きたいと考えております。それでは、資料2及びスクリーンをご覧ください。

まず初めに、パイロットプロジェクトについて説明させていただきます。本事業の目的は「協働と共創」の理念のもと、市と市民有志が新しい文化芸術を活かした魅力あるイベントを創出しながら市民活動のプラットフォームの基盤を作ることを目的として実施しています。今年度より、昨年度の検討会議に参

画しているメンバーで実行委員会を設立し、11月25日～27日の3日間の開催となりました。参加者は約6,000人でした。昨年度からの改善点としまして、実施場所が複数箇所ありましたことから、場所が分かりにくいいため、大和田駅前に集結して実施しました。また、周知方法として、門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト実行委員会公式のHPを開設し、開催前には市内にのぼり旗を設置し周知しました。また、今年度からの新たな取り組みとして、アート作品のコンテストを実施しました。全国各地から103点の応募があり、1次審査を通過した作品をアートフェス会場に展示、そこから11点の賞を設定しました。なお門真市長賞及び海洋堂宮脇修一氏による審査委員長賞を受賞された2名に対し、表彰式を実施しました。引き続き、実行委員会に交付金を交付し、市民活動のプラットフォームの基盤づくりに取り組んでいきます。

続きまして、本市と協定を結んでいます、関西フィルハーモニー管弦楽団との取り組みについてご報告させていただきます。資料3とスクリーンをご覧ください。

まず、ホームタウンサポーター向けリハーサル公開です。楽団の活動を応援することを目的に募集している「ホームタウンサポーター」を対象に、今年度は7月6日、9月14日、1月12日に、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏会のリハーサルを公開しました。次回は3月27日にも開催を予定しております。7月、9月、1月の合計参加者は46名でした。

次に、音楽サロンです。オーケストラや、作曲、楽器などについて、楽団員などと参加者とが気軽な対話によるサロン形式にて開催しました。

あまり馴染みのないオーケストラの裏側や演奏会でのマナーなど、楽団関係者ならではの会話により、音楽に親しみ、地域に根差せるよう楽団のファンを確保することを目的に実施しました。今年度は、昨年新型コロナウイルス感染症の影響で延期になったタイガー魔法瓶さんでの実施及び、新たにJ:COMさんでも実施し、楽団のファンの確保に努めました。また、本市と協定を締結していることを機に、市職員にも関西フィルについて知ってもらう機会づくりのために、

市職員向けに研修を実施しました。次回4月1日に予定している音楽サロンでは、関西フィルに所属している奏者が、子育て世代向けに子育てをしながら働くためのお話をしていただく予定です。

次に、中学生向け演奏会です。文化庁の補助金を活用し、プロの演奏会を通し、市内中学生に想像力や思考力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることを目的に、中学生を対象にした、関西フィルによる演奏会を実施しました。市内中学校3校が参加しました。なお、来年度は、中学生のための演奏会分の市の予算が確保できたため、文化庁の事業申請で採択されなくとも実施する予定です。目標としては、中学校3年間の在学中に1回は演奏が聴けるように取り組んでまいります。

次に、ふるさと納税制度についてご報告します。今年度より、門真市在住者に限らず市外の方々にも、本市が関西フィルの練習拠点であることを知ってもらうために、ふるさと納税制度を活用しました。ホームタウンサポーター向けリハーサル公開のご招待券と、門真ニューイヤーコンサートのチケット及びゲネプロ見学券の2種類の返礼品を用意しました。今後に関しまして、門真ニューイヤーコンサートの演奏音源をCDに録音し、返礼品として出せるように進めています。

その他の演奏会については、新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっていました、BSテレ東エンターザミュージック公演収録を9月28日に実施しました。全国放送でルミエールホールが紹介され、多くの人々にルミエールホールについて知っていただけることを期待しています。

又、門真ニューイヤーコンサートを1月15日にルミエールホール大ホールで開催いたしました。本市で2回目の関西フィル主催のコンサートとなり、前回同様、ほぼ満員で大盛況でした。案件1の説明は以上です。

#### 【清澤会長】

ご説明をありがとうございました。まとめてお聞きしようと思いますので、

つづきましてご説明をお願いいたします。

## 【事務局】

次に、案件2の指定管理者の取組状況について報告します。まずは市の仕様書で指定した事業に関しましてご説明します。資料4及びスクリーンをご覧ください。

ルミエール亭について、伝統芸能の保存と地域振興を目的に、今年度は6月25日、10月21日、2月24日に開催しました。来場者数は全公演、各50名ずつでした。

次に、吹奏楽フェスティバルにつきまして、6月19日に実施しました。出演者は8団体で来場者数は550名でした。

次に、市民の発表の機会である門真市文化祭につきまして、まず、ダンスフェスティバルが10月30日午前11時に大ホールで開催しました。出演団体は53団体、来場者数は1,027名でした。市民創作展については、11月3日から11月6日まで実施しました。出展数は234点、来場者数は3日間で593名となりました。市民芸能祭は11月3日10時に開演しまして、出演団体数は34団体、来場者数は570名でした。市民音楽祭につきまして、11月6日12時に開演しました。出演団体数は21団体、来場者数は369名でした。最後に、企画部会に関しまして、11月3日及び11月6日に、高校生による司会進行、着付体験を実施し、11月6日はお茶席体験を実施しました。着付体験は両日で17名、お茶席体験は40名のご参加がありました。

続きまして、まちかど・まちなかコンサートに関しまして、市民が音楽等に楽しむ機会を増やし、市民であることの誇りを育むことのできる環境を整えるとともに、市外に居住されている方が門真市に対して抱く都市イメージの向上を図ることを目的としています。5月8日午前11時から京阪古川橋駅北口ペアビル古川橋でLien Saxophone Quartet（リアンサクソフォンカルテット）の4名の奏者による、サクソ演奏を実施しました。来場者数は170名でした。

続きまして、中塚荘の常設展示室につきまして、布施寛ふせひろしさんの美術コレクション

ョンなどを4期に分けて展示しました。

なお、コーラスフェスティバルに関しましては、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

続きまして、指定管理者による自主事業等についてご報告いたします。資料5及びスクリーンをご覧ください。まず、ロビーコンサートにつきまして、今年度は12回開催し、2月実施分までの参加者数は延べ655名となりました。

次に、ロビー展示に関しまして、ホールの入り口を季節に応じた飾りつけをして入館者に楽しんでもらうよう、今年度は七夕祭りやクリスマスツリーなどの展示を8回実施しました。

続きまして、陸上自衛隊第3音楽隊・ルミエールホールサンシャインフェス2022を、5月28日に開催しました。参加者数は700名でした。

次に、映画「189」無料上映会につきまして、児童虐待の問題をテーマにした映画を上映し、内容を市民に知ってもらおうきっかけづくりとして7月17日の午前11時30分と午後3時の2回上映しました。来場者数は2公演で1,200名でした。

次に、劇団いっぽ第13回番外公演「いっぽステップジャ〜ンプ2022」につきまして、8月21日の午後2時からルミエールホールのレセプションホールで実施しました。入場者数は500名でした。

次に、会場で大太鼓などの和楽器演奏体験を実施したり、VRゴーグルを着用し、客席で観ているような躍動感を体験することができるVR上方落語体験教室を、9月8日にレセプションホールで実施しました。入場者数は18名でした。

次に、門真手作り市につきまして、市民の手作りの作品を展示販売し、地域の活性化を図ることを目的に、9月18日に中塚荘で実施しました。出展者が28名で、230名にお越しいただきました。3月19日にも門真手作り市の開催を予定しております。

つづきまして、アウトリーチコンサートに関しまして説明をします。小学校四年生を対象の文化振興事業として、小学校12校で合計718名の児童を対象に

開催しました。

次に、門真絵画 100 選につきまして、9月9日から9月11日まで開催しました。来場者数は500名でした。

次に、日本の伝統音楽鑑賞と和楽器体験邦楽チャレンジ！2022 について、人間国宝の奥村旭翠おくむらきよくすいさんと杵屋東成きねやとうせいさんらによる貴重な演奏を鑑賞したり、三味線・お箏・鼓の伝統音楽の体験を10月8日の午後1時からルミエールホール小ホールで実施しました。入場者数は合計40名でした。

次に、ラブリーフェスタ de ルミエールについて、10月10日午前10時30分から午後4時まで実施しました。入場者数は合計700名でした。

次に、ウィーン弦楽合奏団クリスマス/アヴェ・マリアを12月22日午後7時から大ホールで実施しました。入場者数は500名でした。

次に、映画「ある家族」無料上映会につきまして、里親制度をテーマとした映画を上映し、内容を市民に知ってもらおうきっかけづくりとして、小ホールで1月14日の午前10時と午後1時の2回上映しました。来場者数は2公演で180名でした。

次に、中孝介あたりにこうすけコンサート 2022～声を聴かせて～について、1月22日午後4時から小ホールで実施しました。来場者数は180名でした。

続きまして、みんなでつくる門真の第九 2023 を1月29日午後1時30分から大ホールで開催しました。来場者数は約540名で、参加者数は102名となりました。

最後に、辰巳ゆうとたつみコンサート 2023 につきまして、3月8日午後4時に大ホールで開催しました。来場者数は約750名でした。

以上が指定管理者の取組状況についての報告です。

## 【会長】

ありがとうございました。

事務局よりご説明いただきまして、あとはご意見を聞かせていただければと

思います。

ルミエールの自主公演ですけれども、定例的なものと、この時だけのものがあると思うんですけど。ロビーコンサートは定例的にやっておられますかね。それからロビー展示も。自衛隊のコンサートはこの時だけですか。

**【事務局】**

はい。この時だけです。

**【会長】**

映画は、今回2回ほど実施していますが、これは大体定例的にされていますか。

**【事務局】**

年に1回はやっていきたいなと思っています。

**【会長】**

それから劇団いっぽも、これは番外公演となっていますが、定期公演みたいなものはないのでしょうか。

**【事務局】**

市民ミュージカルとして2年に1回やっております。今年がその2年に1回の年となります。第10回を8月に実施予定です。

**【会長】**

それからバーチャル落語、これはどうですか。

**【事務局】**

これは文化庁による、コロナのためのいろんな助成支援がある中で企画が上がり共催させていただいたものになるため、次回はないと想定しています。

**【会長】**

手作り市についてこれは何回かやっているのですかね。

**【事務局】**

年に3回やっているのですが、今年度に関しては1回がコロナで中止になっております。今週末の日曜日に2回目をやります。

**【会長】**

アウトリーチのコンサートをやっておられるようですが、絵画 100 選も、これも何回かしていますね。

**【事務局】**

これは去年から指定管理者と一緒に取り組むようになりました。

**【会長】**

邦楽チャレンジは。

**【事務局】**

これも文化庁のコロナ対策の事業のため、今年は難しいと思います。

**【会長】**

ラブリーフェスタは毎年やるような感じですね。それ以外は、第九は毎年実施しているような感じですが、その他のコンサートは 1 回限りとのことですか。

**【事務局】**

企業等からの持ち込みが多いため、共催として内容がよく、条件があえば引き受けます。大体 1 年間に 1 回から 2 回、市役所からも年に 1 回程度やっています。

**【会長】**

ありがとうございます。このあたりを踏まえてご説明をいただきましたが、ご意見をいただければ、自由に発言していただいて結構です。順番におっしゃっていただければと思いますが、まず、わかぎ先生からお願いします。

**【わかぎ委員】**

おはようございます。初めて来たときから考えたらすごい色んなことをされていて、すごくいいと思うんですけども、今後の市政のことにも関わると思いますが、全部の来場者数を見ていると、家族が来ていますよね。例えば、ダンスフェスティバルの 53 団体、1,027 名というのは、ほとんどおうちの人に来ている。そのように今は縦割りになっている状態。音楽だったら音楽をやっている家族が来ている、ダンスだったらダンスをやっている娘を見に来る。これを横につないでいかないと、門真市が本当にやりたいことには繋がっていかな

いという印象を私は持ちました。

たくさん色々なことをなさる様になって、それは素晴らしいと思うんですけども、演劇しか見ない、家族しか来ない、音楽しか見ない、第九のコンサートに行ったら第九の家族が見に来るというのではなくて、そこから興味を持って次のステップに行かないと、今やっぺらっぺらやることはどこの市でもやっぺらっぺらやることに近いと思うので。アクセサリーを作って販売しているのを友達がいかに来る、その友達が横のやつもかわいいから買う。ぐらいで済んでしまうと面白くないので、オーダーメイドしてその人自身が何回も出来るようになるとか、その横で音楽をやるとか、横軸をもう少し繋いでいかないと。そのためにはテーマ性のあるもの、何でもいいんです。例えばコンサートの話で、前もしたと思いますけれども、昔、ハリウッドドームっていう有名なハリウッドの曲しか演奏しない管弦楽団がいて、フェスティバルホールに来ていたことがあるんですけども、それを聞きに行ったらめっちゃめっちゃおもろいですよ。だってね、スターウォーズをフルオーケストラで演奏してくれるから。うちの旦那なんて、クラシック全然好きじゃなかったけれど、すげえなって言わせて、聞きに行くようになったんです。そういうきっかけで子どもたちのとても必要で、クラシック音楽すげえな、じゃなくて、鬼滅の演奏をするんやこの人たち、みたいな、そういう掘みやキャッチがちょっとずつ足りていないという気が私はします。この来場者数を見ててもそうなんですけれども。それをなんでやるのかっていうのは市政に関わると思うし、どこの市もそれに悩んでいるところと思うし。でもそれが横に繋がると、今の韓国みたいに教育にまで発展して行って、誰もが当たり前で享受できるような。国とか地域と持っていくと思うんですけども、ひとつはお祭りだと思うんですよ。ルミエールホールのクリスマスツリーがめっちゃくちゃ有名になるとか。そしたらそこでクリスマスのイベントを大々的にそこで実施する習慣があるとか、アウトリーチを1日だけではなく、海外のサマーキャンプみたいに1週間の企画を立てて、夏休みに1週間はずっと音楽が流れるとか、めっちゃくちゃ変な絵を描く先生を

呼んできて、この部屋全部絵具をぶちまけていいというような、子どもたちがなんかすごく面白かったなという印象だけを持てば。そしたらどんな子どもになるか分からないけど、門真で面白いことをしたという思い出をもって過ごす方がいいと思うんです。例えば絵画なんか習っても、俳優なんか習っても、ダンスなどを習っても。すごくいいお父さんとお母さん、何でもやってみろ、何でも書いてみろ、何でも食べてみろっていうお父さんとお母さんに育ててもらう方が、いわゆる文化振興の内側の肝だと思うから、そこにどんどん繋げていかないと。色んなことをやっても、その家族とか友人とかしか来ないんじゃないかと私は思います。

#### 【会長】

ありがとうございます。貴重な意見です。大切なことだと思います。そういった視点はルミエールホールさん持っておられますか。

#### 【事務局】

コロナ前はサマーアートというものを実施しており、前衛的なアーティストが子どもたちと一緒に物を作ったりということはやっていたんですが、わかぎ先生がおっしゃられているように、どうしてもやはり集客は家族に頼ってしまっている。家族や友人以外が来るというところに力をかけていなかったと思うので、今後検討していきたいと思います。

#### 【会長】

全体的に祝祭的な雰囲気になっていますね。いろんな芸術が融合するようになれば。成功例みたいなのもあると思います。その辺りは委員の皆様はお詳しいので、必要に応じて聞いていただければと思います。

#### 【事務局】

中学生の音楽会において、曲目にスターウォーズの演奏がありまして、実施後のアンケートでそれがすごくよかった、まさかそんな曲を演奏すると思わなかったとの意見がありました。身近なもので、こんなこともクラシックで出来るのかっていうのを体験してもらえたかと思いました。

## 【会長】

中出先生、いかがですか。

## 【中出委員】

私も、わかぎ先生と同じことを思っていました。集客の件に関して、家族の方が見に来るが、そこから広がりがなく、次に繋がりにくいのかなと思います。自分もコンサートを行っているので。若い時は自分が演奏することで必死になるというか。演奏の内容しか考えていなかった。そのうちお客様のことを考えたり、さらにスタッフのことを考えたり、いろいろ考えられるようになってきたんですけれども、音楽協会の方では、私が演奏しているときにスタッフとして企画したりもしているので、どうしたらいろんな方が来ていただけるかなって、演奏する人に集客を任せるとかではなくて、集客を凶っているんですね。いつも門真の方より他府県の方が来てくださったりして、毎回来てくれる方もあって。門真に限らないが、せつかく門真でしているのだから、門真の方にも来ていただきたいなといつも考えているんです。わかぎ先生もおっしゃられた通り、昔と比べたらはるかに活発に色々な方面に催しを企画されており、そこは素晴らしいなと思うんですけれども、どうすればもっと人がたくさん来てくれるようになるのかなって。一つは予算のこともやっぱりあると思うんです。お金もかかるしね。例えば商業施設で何かイベントをするときには、目玉になる方を呼んできたりするじゃないですか。やっぱりそういったことはお金がかかると思うんですが、そういうことに、お金がないやらやっぱ無理とかではなく、文化庁とか市民の方で活動されている方に市の文化芸術の予算を取られていますよね、そういう風に活発にされている方がいるので。面倒くさいとは思いますが、見積もり作って色々書かなあかんっていうのは。すごい面倒くさいみたいなんですけど、慣れている人はいつも上手に書いて予算を取ってはるんですよ。わくわくキッズの実島さんとかはすごい上手に、こういう風な目的でこういう風なことをするから交付金を下さいっていうのを毎回書いてはってもらってはるから、そういうのをされたらお金の問題も解決するかなと思います。

そうするとちょっと目玉の方を呼べたら、そこから家族以外の人も呼べるかなと思います。ルミエールホール 30 周年記念のコンサートをプロデュースさせていただきありがとうございますお話をいただきまして、舞台の方は私がさせていただきまして、それに出演する子ども、学生の方が全員奈良の子で1人も門真の子がいないのですごくつらいんですけれども、1人でも門真の子がいればなど少し残念で。たまたま全員奈良の子でみんな優秀な人で1番大きい子は東京藝大の3年生で。それと関西フィルのメンバーとコラボさせていただくというありがたいお話をいただきまして。そういうのも、市民を対象にチケットを差し上げるけれど、集客がちょっと自信なくてとおっしゃられていたのも、やはり無料なので広報の仕方を特にもう少し上手に行った方が良いのではないかなと思います。広報は、市役所の方はご存じだと思うんですけれども、市民全体に行き届いているんですよ。自治会費払っていない人にも。

#### 【事務局】

全世帯に配布しています。

#### 【中出委員】

でしたら、全員に見ているはずなんですね。広報に載せる以外にもどこかに、そんな大したお金もかからないと思うし、どこかに紙を置いておくとか、できたらいいなと思います。集客の問題とお金の問題を別の視点からやっていただければなと思いました。

#### 【会長】

ありがとうございました。本田先生いかがですか。

#### 【本田委員】

ご報告いただきました KADOMA ART FES を観まして、面白く勉強になりました。全国各地でアートフェスティバルが実施されていますが、大きく分けて2種類あります。1つは例えば新潟の大地の芸術祭や、瀬戸内国際芸術祭、これは大きな自然空間の中で魅力のあるキャッチーな作品を持ってきて観光集客と一緒にやるといった形。もう一つのタイプはまちなかや地域の中でまちにある小さ

い民家とか、商家あるいは劇場とか色々な場を使ってそこにアーティストが協働で魅力のある空間をつくっていくやり方で、茨城県取手市で、利根川の横にあるんですけども、東京藝術大学と連携してもう 20 年ほどやっておられます。それから、九州の方も結構盛んで、別府とかでもまちの中の空間で一緒に作り上げていく。今回の門真の場合はどちらかというと後者の方タイプ。まちなかの空間で色々なアーティストさんたちに参加してもらって、お客さんを集めながらやっていくということで、すごく貴重な第一歩だと思います。今後の課題としては3つぐらいあるのかなと思います。まず一つはもう少し期間をですね、開催の期間が3日間だったと思うんですけども、もうちょっと例えば1か月ぐらいで取っていただいて、集客ももう少し広く集めてくるというような取組みなんじゃないかなと思うんですけども、そういう意味で作品集めるために今年から今年度実施されたとすごくいいと思うんですけど、これは103点っていうのは、アーティストの方々、どれぐらいの範囲で応募があったんでしょうか。もう一つは、やっぱり取手とかですねもちろん何回も行きまして、レポート書いてるんですけども、市民の方、地域の例えば団地の自治会の方が本当に一緒に参加されて作品の解説とかですね、全部きちんとされてるんですね。ここが見どころですよということで。少し時間をかけて地域全体で入っていただく参加体制を作っていたら、より効果が長い目で生きてくると思うんですね。取手では団地の空間をもう10年、20年のスパンでリニューアルしていますから、その時にアーティストが参加されてとても素敵な、元の公団団地ですけども、壁面を全部リニューアルし魅力ある空間になってきてますので。あるいは団地の中の古い商業施設をリニューアルしてアーティストさんのギャラリーとか、作品を作られる場にしていくという形の取組が進んでいって地域全体がそのアートっていうのをきっかけにして発展してる、そういう取組みの展望を持ちながら進められたらいいのではと思います。

あと音楽の分野では、『第九』に私も3年ぶりに参加できまして、嬉しかったです。

【わかぎ委員】

ちなみに本田先生のお客さんはどんなお客さんだったんですか。

【本田先生】

私の妻です。

【わかぎ委員】

そうなんです。問題はそこなんですやっぱり。

【本田委員】

地域の外へもっと広まってほしいですね。やはりこれだけのすごく値打ちあることをされているので。

【会長】

はいどうもありがとうございました。

実際見ていただいたりして色んな評価をいただきましたけれども、朝倉副会長いかがですか。

【副会長】

家族にとどまってるっていうことなんですけども、関西フィルが披露演奏されたときですね、あれはYouTubeに出されましたよね。後のですね、例えば市民文化祭とかですね、そういったものを、その映像なり若しくは動画で発信して常に見れるということをするんですね、次見に行ってみようかなとかですね、世界中の人が見れるわけですよ。門真市全体でこんなことやってる、市のホームページ見ても、なかなかそういったその文化だけに特化をして見ようという人はいないですし、どこ見ていいかわからないですよ。そこまでたどり着くまでよっぽど興味があったり着くというね。ことなので、そのことをもう少しネットの活用っていうのはもう基本推進計画の中にも、入っているんじゃないかと思うんですよ。

あと基本計画を一つずつやっぱり点検して次のステージでどうしていくのかっていう、報告が必要かなと。なんとなく全体でなんかやってはるな、なんか地域の子供たちとやってはるなみたいな感じなんですけど、全体でどうなんだ

ということを、やっぱりきちっと確認していかないと、ほったらかしの部分はほったらかしになると思いますね。例えば、公設民営の芸術団体の設立なんてものすごい事を書いてあるんですけど、それは例えば進んでますかとか、進んでないけれども、どうしますかとかいうことを考えていくというですね。割といっぱいあると思うんですよ。だから逆にこういったルミエールホールで何がありましたっていうことの報告よりも、そういう報告の方がもしかしたら大切なのかなというふうな気はしています。

それから、国の文化芸術推進基本計画が来年度から2期に入りますよね。多分パブリックコメントが出終わった時期だと思います。多分その資料も出てると思うんですけども、その辺の情報収集と、発展的な整合性というのをどうするのかということも考えていかないといけないという風に思います。

それとですねもう1個、アウトリーチとかですね、これは教育委員会の連携はどうなってるんでしょうか。要はですね、多分門真の子どもたちをどうしたいという思いは教育委員会も持っているはずで。じゃあ、こちらの部分でその連携をして、それを効率よく同じ目的に向かって行事を組み立てていかないと。私達はここにあるからこれやっています、とかではなくって、アウトリーチも教育委員会的な視点でこういうことをやってほしいなという形があるかもしれないし、そういった連携は必要かなと思いました。

特に国の方でゴタゴタしてますけど、クラブ活動の地域移行が謳われていますね。ここで言われているのは地域の受け皿を問題なんですね。そうなったときに、受け皿ってのは文化団体っていうことになりますので、それをどう考えるのかということは、これはこちらだけでは考えられないんで、やっぱり教育委員会と相当ですね、やりとりして良い形で持っていかないと、教育委員会だけでもおそらくできないと思うんですね。地域の文化団体ということですね。だからそういう研究もちょっと進めていかなあかん違うなっていう風に思っています。

【会長】

ありがとうございます。国の文化芸術推進基本計画は、いつから出来るのですか。

【副会長】

今年で変わります。

【会長】

アウトリーチと教育委員会、この辺はどうですか何かもし何かあったら、コメントいただければと思います。タイアップというか調整というか。

【事務局】

今は直接学校とですね。もうなんせ 10 年以上やっているものですから。今は直接学校に、毎年時期が来ると個別にやりますか？やりたいですっていうやりとりをしちゃってるので、今、先生がおっしゃったみたいに教育委員会も、もちろんこれをやっていることはご存じですけど、連携するっていうこと、素晴らしいアイデアだと思います。次年度は是非そうさせていただきたいなと思いました。

【会長】

調整といいますか、教育の意見だとか、今ルミエールがやっているやり方とかね。効果的な進め方というんですかね。

【事務局】

おかげさまで、毎年先生が、もちろん担任の先生もそうなんですけど、教頭・校長が必ずアウトリーチをやっていると覗きに来てくださってですね、また来年も来てくださって言っていただいている関係で。今年は全校じゃなかったんですけど、14 校中の 12 校回ってしまして。コロナ前は 14 校全てを回ったんですけども、2 回止まってしまっていたので、今回が久しぶりの、やはり何年かぶりの再開で 12 校行けたのは良かったかなと思います。

【会長】

教育委員会を挟むとネットワークが悪くなりますよね。学校単位の方が動きやすいかもしれませんね。見極めながら進めていただければと思います。

クラブ活動の地域の移行は、大体体育館系のものが多いと思うんですけども、文化関係はどうですか。

### 【副会長】

文化関係はめちゃくちゃ遅れてまして。これ考えることが例えば大阪府でもですね、保健体育課の方で検討されているんですね。文化とスポーツ、ずいぶん違う。スポーツの方は特にスポーツクラブですとか、ジュニアのクラブがあったりするので、比較的スムーズにいくかもしれませんがただ文化の場合は非常に。スポーツの方の答申が先出たもので、後追いで大体それに合わせて出てるんですけども、やっぱり議事録読んでますと、はっきり言って実現にはまだまだ乗り越えなければならないハードルがあります。目標達成は見直しとなりましたよね。要するに土日は当面地域におろすけれども将来的には全部おろすということなんですけど、文化関係の場合は特に中心になってる吹奏楽については、例えば楽器1つ買うにしても何十万という単位でないと揃えられない。それを地域の受け皿が、あるのかどうか。それから指導者がいるのかとか、そういう問題も今出てきているので、これ相当考えないと崩壊していくと思うんですね。それはあんまりここで考えることではないかなと思うんですけど。

### 【会長】

ありがとうございます。大体皆さん方からご意見いただきまして、本年度のですね、総括のような形で今回の審議会があるわけですけども。わかぎ先生、中出先生、本田先生、先ほど副会長から色々お話をいただきまして、その辺はまた皆さん方にまとめていただけたらというふうに思うわけです。あと門真市の文化芸術推進ということで、割と少し大きな、具体的に話すと生涯学習センターだとか古川橋駅前の、今回も市長からいろいろ聞いておりますと、かなり力が入っていると感じています。それから文化に直接関連するかどうかは未知数ですが、ららぽーとですね、これが大きな施設であり、駅までできるということなので、やはり人が集まる大きな拠点でもありますし、施設側の企画が中心になると思うんですけど、文化的な話もちよっと大分変わってくるじゃないか

と思います。また、大和田の駅前の空き地ですね、これもいろいろ考えておられると思うんですけども、ハード面での割と大きな変化があると思いますのでその辺も一応きちんと考えていただければと思います。それで何人かの委員さんからのご指摘もございましたが、各事業の評価・点検ですね、これは人数が集まったとかいうことだけではなく、企画された側として良かったのか悪かったのか、あるいはどう対応していくのかということですね。これは市の方が、やはり生涯学習課が中心になって、その評価をされたりとか、あるいは事業者の方と一緒に評価されたり、されてるんだろうと思うんですがこの辺はやっぱりきっちりやっていかないといけないと思います。これはトイボックスさんというふうなところに委託されてるということからいいますと、いわゆる費用対効果みたいなことの考察もですね、非常に大事だという風に思います。同じものを繰り返していくということではなく、どんどん改良していったりするという点からいうと、そういう委託事業を含めまして、いろんな文化事業の業務改善、提言なんかもこの委員からもさせていただいておりますが、それを含めて市の生涯学習課とか、市の方でもやはり、きっちりした評価をしていただいて。むしろそういう評価をしていくことも大事ななというふうなことは思います。それからこれまでのご意見でありましたし、今日わかぎ先生からもありましたが、そういう大きな企画ですね、総合的といいますか、取り込んだとかパッシングの高い、家族だとか身内中心にならないような企画ですね。これって、費用もかかりますし結構準備もいるというふうなこともありますし、何かの視点を見据えてそんな取り組みが必要じゃないかなと。市民の方から声上がったところで、とても動くものでもありませんし、やはりこれはあの主の文化担当部局中心にそういう動きをそろそろ持って行ってもらってもいいじゃないというふうなことは思います。これは最初のこの答申を出したときに、組織横断的な体制のもと、庁内ですね、というようなことでお願いをしておりますし。これは生涯学習の皆さんが中心になられると思うんですが、そういう市の方として、企画立案あるいは実施の手前までですね、それか

ら以降は共同でもいいと思うんですよ。そういうような形へとそろそろ進んでいただいてもいいんじゃないかお思います。あと広報の話もございましてですね、この議題だと思っんですけども、今日も傍聴席誰もおられませんけれども、関心のある人もおるかもしれませんし、それは文化推進のこういう審議会があるんだということを、広報に出るんですかね。

#### 【事務局】

ホームページと情報コーナーに掲載しています。

#### 【会長】

もうちょっと工夫がいるんじゃないかなということですね。こういう具体的な内容の話を市民の人やあるいは庁内の方でもいいわけですし、傍聴してみようかというふうになるような仕方、そういう人がおられると意見も色々出てくると思いますし、こちらからも意見が出てくるかと思っますし。そういうような考え方やまとめ方、ネットだとか。誰も今見れますよね。ああいう部分ですともう少し充実した内容を審議会どんなことやったということも含めてできるんじゃないかと思っますし、傍聴者がちょっと入れるぐらいの感じになるようなこの審議会に出来たらいいなと思っます。その辺を工夫していただきたいです。委員の意見がいろいろ出ておりますので、その辺をこうこうやります。例えばこうやりましたということで、今最初の審議答申の中に出ておりますいろんな組織作りの話だとか、その推進ですねこの辺の確認も審議会として重要なことですので、その辺も含めて、今後進めていただけたらなと思っます。

大体以上のことになると思っますけれども、あと委員の方なんかはどうでしょうか、ご意見ございませうでしょうか。

#### 【本田委員】

今、先生からもご指摘あったんですけど、国の方がちょうど文化芸術の推進の第2期基本計画のホームページに載ってますので。参考にさせていただけたらと思っますけど、私が見させていただいた限りでは、やはり文化芸術そのものが持っている固有の価値ですね、やっぱり人間生活にとって不可欠の不要不急

のもんじゃないよと、コロナだから置いといたらいいいよというものじゃないよ  
ということの強調が一つと、あともう一つはその社会的役割ですね、例えばまち  
づくりとか生涯学習とか、高齢者の方の生きがいの問題とか、そこにやはり  
これからそれぞれの各政策領域が考えていく上で、文化の重要性っていうのは  
不可欠の視点になってるんだということをすごく強調されているように思いま  
す。例えばまちづくりでも、古い例えば建物あるいは街並みをですね、どうリ  
ニューアルして、新しい魅力ある、外からお客さんが来てもらえるような、あ  
るいは魅力のある空間をつくるなかでアーティストとの協働ですすめていく。  
公共団体、民間事業者いろんな事業をやる時は、文化の視点にたって、文化  
担当部局との共同の取り組みで進めていくという視点が重要だと思います。新  
しいショッピングセンターでも文化芸術活動の場として活用できる空間が沢山  
あると思いますので、市民の方々、より広く大阪府民の方の文化活動の場とし  
ても使っていただく視点が大事な、とと思っていますので是非頑張っていただ  
けたらな、とよろしくお願いします。

#### 【中出委員】

思いついたんですけれど例えば、奈良ミュージックフェストっていうようなもの  
がありまして、3月くらいから6月くらいまで。結構、奈良とかは素敵な都市  
ですよ。色々なちょっとした音楽サロンやお寺とかと提携してね、そこで音  
楽のコンサートをされているんですね。その京都なんかは本当にもっと昔から  
色々やっているし、兵庫県とか。兵庫県とか京都、奈良、近隣にこんなに都市  
があって大阪だけなんかやっぱりそちらの面が進んでない。まあよその地域で  
はあると思うんですけれど特に門真はちょっと遅れているかなと。第九とかも  
やっぱり素晴らしいなと思っているんですけれども、なんか一個に力入れ過ぎ  
ているというか、それをやるのにすごい1年もかかっているってちょっと大層な気  
がするので、もうちょっと気軽なものをいっぱい作ってそれを繋げていくって  
いう感じの、なんかねミュージックフェストも誘っていただいて、また多分来年寄  
らせていただくとおもうんですけれど。もっと気軽にこうエントリーできたりす

るんです。そのようなものを、ちょっと調べて頂いたりしたら多分よそでできるから、こっちでもできるんじゃないかなって思ったり。私はたまたま音楽のことですけど、そういうのを上手につなげていったら、別に音楽と切り離さないで演劇と音楽と文化芸術、絵画とかそういうのと連携してやるとかそういうふうにしていったらこう、どんどん一個だけで力尽きるんじゃないかと続いでいくように、広がっていくような感じにすればいいんじゃないかと思いました。

### 【副会長】

これまあもう言っても仕方ないんですけども要はお金やと思うんです。何が言いたいかと言うと、この部門がですね積極的に予算を。予算を要求して欲しいと思います。例えば、指定管理業者の選定会議ですね。いかにその経費が安いということをやっぱり評価していくんですね、どこでもね。ではなくて、日経の夕刊に一週間くらい特集していたと思うんですけど、文化に携わる人間はどうしてもですね私たちは好きなことをやっているから多少しんどくても、収入が少なくてもまあ好きな事やから、我慢している。これは今後、許されることではないという連載があったと思うんですね。だから多分、トイボックスさんにお問い合わせされるときに予算、これだけしかないんですわ、ちょっと相場よりも低いですみたいな、そうじゃなくって、バーンとこれだけ金が要ると。第九やるにはオーケストラやとったらこんなに金が要るというのをね、やっぱりパンパンだしていかないと、なんかここでこじんまりとこの中で一番効率的で、という発想を文化については変えていった方がいいなとは思っています。まあ実現不可能なんですけどもね。

### 【わかぎ委員】

一つだけいいですか。コロナの間に、例えばお金の話なんですけども。助成金っていうのが、文化庁から助成金いただいている劇団があるんですけども、助成金貰わんほうが気持ちがいいと私はずっと思っていたんです。自分とこで賄えてそれで自分とこのお客さんの収入だけでお仕事できればなおさらいや。だから助成金をどんどん貰わないようにしていきたいな。でも助成金貰

わないとやっぱり東京公演とかなかなか行きづらいなど。やっぱりその助成金について一生懸命頑張っておきなあかな、と書いていたんですけども。コロナの時にもう誰にも会われへんくて ZOOM 会議ばかりになって。日本演出者協会っていうのがあって、今常務理事させていただきますけど、詩森ろばっていう演出家がいるんです。彼女が一言言ったんですけど、こうやって助成金を私達が取ってちゃんとええもん作っていけるってことを見せないと、若い人たちがどんどん文化予算減らされていって、どんどんその文化予算がなくなっていくと、ええもん作れるお金も国がどんどん減らしていくと。だから助成金を取らなあきませんという考えをされていて、実に私はそれが新鮮でなるほどな、みたいな。なんかその自分の為とか、今のために取るんじゃなくてええもん作ったら人が来るということのために、後ろへ渡すために、助成金をちゃんと取っていく。そうすると他の国でも、たとえばフランスが国の国家予算の何パーセント使っているっていう文化予算とかも 100 年前は無かった、100 年前には貴族がお金出しているような、もうほんまに無限にお金持っている人らがやしているようなことをやっていたけど、どんどんええもん作れんねんって国家予算が増えていった。これ、スポーツはそうです。だから文化予算も本当に考えてらっしゃるなら、まあ今の繋がりですけど無理やと思いますけど。やっぱりあの年に一つでいいからちゃんとお金、あそこ行ったらこのあれはめっちゃお金使えるんやっていうものを。ええもん作った方が多分人は納得するし、人は育つと思うんですよ。お金ないけど頑張るっていうのもみんなやってるんで。みんなやっていること、もう日本中でみんながやってるんで。文化予算って、あのみんなの税金なんで、そこちゃんと使おうよっていう気持ちに私はその詩森ろばさんの言っていることで少し気持ちは変わりました。それを実施したのが韓国のこの 30 年間の演劇と音楽の世界。それはもうみなさんがご存じのとおり 30 年前の想像をしていただいたらもう演劇のえの文字もなかった国が今は世界一の演劇大国なんです。世界一の音楽大国なんです。それこそ BTS がバイデン大統領と対談するような国になったんですけど、これは国家予算も動いてい

るんですよ。彼らに対して、彼らを育てるために。それが地域で行われるとい  
いと思います。

#### 【事務局】

さっきおっしゃっていた、ららぽーとの件なんですけれども、実は門真の第  
九をららぽーとの中でやるというお話を今進めておりまして、4月17日にオー  
プンなんですけど12日に向こうの館長さんが記者会見をするんですけど、そこ  
で是非喋りたいと。地域の芸術の団体さんと一緒に組んで、ららぽーとでのイ  
ベントをやりたいということを、やるっていうことを発表して、日程の調整等  
を進めております。それとさっき本田先生からお話あった門真アートフェスの  
作品の募集なんですけれども、北は北海道の方からも出して頂いたり、基本的  
には関西圏の方からのが多いんですけども、関東もありましたかね、結構あ  
りました。それは募集するのに芸術祭と言いますか、専門サイトがありまして  
そこに掲載したことによって全国から応募はありました。あとは運搬の問題で  
すかね。結構造形系が多かったので運搬の遠い所は自分たちで送ってこなくち  
ゃいけないっていうので躊躇される方はいました。

#### 【会長】

まあ色々ご意見いただきましたし、昨年度の総括でもあるしこれから新年度  
の審議会もそんなにいっぱいあるわけではないのでそのあたりも含めて。それ  
から、少しまとまった予算化も含めてやっていただくということで。それにつ  
いてはですね、できるだけ時期を見据えて一つ何かやってみるといいのではと  
私は思います。事務局の方、他に連絡はありませんか。

#### 【連絡なし】

それでは審議会を終了したいと思います。ありがとうございました。